

[公財] いわて産業振興センター広報誌

産業情報 いわて

Industry Information Iwate

Vol. 217 / 2022
6・7

キラ輝く
岩手の企業

金ヶ崎町 株式会社K・S・P
地域を生かし、魅力を生む。
岩手発リキュールを世界へ



各部事業紹介…6・7

設備貸与制度のご案内…8

ILC current topics…8



キラ輝く
岩手の企業

地域を生かし、魅力を生む。 岩手発リキュールを世界へ

クラフトビールをはじめとした少量生産かつ個性的な酒が注目を集めている。
このブームを牽引してきた欧米では、ジンやハーブリキュールの市場も急成長。金ケ崎町で起業した
老川和磨氏は、国産のハーブリキュール製造を通し、新たな飲酒文化をここ岩手から発信しようとしている。

①「少しを楽しむ」をコンセプトに、国産ハーブ、果実などをブレンドした新感覚のリキュール「和花」。クラウドファンディング「Makuake」で賛同者を募りながら開発に取り組んだ。②自社で栽培するハーブ畑にはトータルで50種類のハーブや果樹が植えられている。③工場には貯蔵タンク6本を設置。④⑤高濃度アルコールにベースとなるボタニカル(植物)を漬け込み、様々なハーブを合わせ、香りを「上書き」していく。



金ケ崎町 株式会社K.S.P



世界のトレンドを受けて ハーブリキュールを製造

嗜好の多様性にとめない、古くから欧米では薬草酒として親しまれてきたジンなどのスピリッツや、ハーブリキュールの世界市場が活況を呈している。そのトレンドを見据え、ここ岩手で国産ハー

ブを使ったリキュール製造をいち早くスタートさせたのが、株式会社K.S.Pである。
「ハーブリキュールは原材料の自由度が高く、ローカルなハーブや香草なども使えるため、その土地らしさを表現できる。味の方向性を明確にした酒を作り、日本のボタニカルを世界に届けていきたい」

瞳を輝かせながら、力強くビジョンを語るのは同社代表の老川和磨さん。令和3年1月に岩手に戻り、2ヶ月後の3月には金ケ崎町で起業。酒造を担う「金ケ崎薬草酒造」、農業生産部門の「K.S.P薬草ファーム」、デザイン部門の「K.S.Pデザインラボ」の3事業を立ち上げ、令和4年1月発

売の商品「茶酒・桑ノ木田30」を皮切りに、日本の四季をイメージした和ハーブリキュール「和花」など、今までにないアルコールを次々と世の中に送り出している。

様々な販売戦略を駆使し 新たなマーケット誕生へ

老川代表は、留学先のカナダやアメリカで地産地消を謳った醸造所の存在に感銘を受け、帰国後は東京でジンとハーブリキュール専門のバーを開業。ハーブや野菜

などでリキュールやシロップを自作し、これが酒造業へ挑戦する大きな強みとなった。

だがカシスなどの甘いリキュールが主流の日本で、ハーブやスパイスを使ったリキュールへの理解はまだ低いのが現実。
「単に作っても、喜ぶのはパーティーのような酒のプロだけ。新たなマーケットを確立するには、商品を通して使い方や飲み方を含めた『飲酒文化』を確立すべきと考えました」

SNSやYouTubeを介しての情報発信をはじめ、パッケージデザインや商品開発にクラウドファンディングを利用するなど独自のブランドストーリーを作り、多くの人の関心や共感に訴えた。その一助とすべく、いわて産業振興センターの事業も活用。よろず支援拠点でプロジェクトのロードマップを作り、出展したスーパーマーケット・トレードショーでは大手商社やEC運営会社との契約にもこぎつけた。

詳細は5ページ **この事業を活用しました**

注目の新商品、続々発表 金ケ崎から酒文化を創る

この夏も地場産アスパラガスを使ったアペリティフをはじめ和紅茶のリキュールなど新商品が続々発売、「和花」シリーズも既存の2種に続き、夏と冬がテーマのリキュールも登場する。

「これからも、見たことのない酒、飲んだことのない味わいを追求していきたい」と老川代表は意欲を語る。ここ金ケ崎から、今まさに新しい飲酒文化が生まれようとしている。



6



7



8

⑥柚子や檜をベースにした「和花 樹(いつき)」と、ほうじ茶や赤シソが香る「和花 果(みのり)」。「夏」と「冬」をテーマにした和ハーブリキュールもこの夏登場。⑦北上市で作られている更木桑茶を使用した「茶酒・桑ノ木田30」はアルコール度数30度の本格的なお茶の酒。⑧「お酒の美味しさ」を伝えたいと飲み方の提案も行なっている。

代表メッセージ

代表 老川 和磨

渋谷のバーで飲んだ「ベルモット」が、ハーブやスパイスを使ったアルコールとの出会い。あの美味しさを伝えたい、そして自分の手で原料からこだわった酒造りをしたいと選んだのが郷里の岩手でした。金ケ崎町は同業者や競合品がないことに加え、原料調達を可能とする豊かな自然環境が魅力。この地で生産者や消費者と一緒に成長できる商品作りを通して「持続可能なものづくり」、すなわち「未来の暮らしに新しい価値を創る」事業を展開していきたいと考えています。

代表 Profile

1993年、岩手県生まれ。18歳で上京し飲食業を経験後、カナダとアメリカに留学。地域に根ざした醸造文化に感銘を受け、都内でバーの経営を通してリキュールの世界を追求。2021年、醸造業を立ち上げるべく岩手へ帰郷。ハーブ栽培を通して地域農業の振興にも関わる。



企業データ

会社名 株式会社 K.S.P.
本社 岩手県胆沢郡金ケ崎町西根下桑ノ木田30番地
電話 080-4510-4636
代表者 老川 和磨
創業 2021年3月
従業員 役員2人
業種 ハーブの製造、加工、販売、飲料品の製造、加工、販売、各種デザイン業務
URL <https://www.kspyakusou.com>

沿革

2021年 3月 株式会社K.S.P.(金ケ崎・サスティナブル・プロダクト)を設立(老川・林)
2021年 9月 工場兼事務所完成
2021年11月 リキュール製造免許取得
2021年12月 Makuakeにて「少しを楽しむ」お酒
和ハーブリキュール和花のプロジェクトを公開
2022年 1月 「食事と楽しむお茶のお酒」 茶酒 桑ノ木田30を販売開始
2022年 2月 Makuakeのプロジェクト終了 300万円の資金調達に成功
2022年 3月 「少しを楽しむ」お酒 和ハーブリキュール和花を販売開始
2022年 4月 業務用の和花ハイブルーを販売開始

技術 Technology ポイント Point

東京時代はジンとハーブリキュール専門のバー経営を通し、ユーザーの興味や嗜好にダイレクトに関わってきた老川氏。酒の使い方やどうやって飲むかといった現場の視点を持っているため、リキュールに馴染みのない層にもアプローチしやすい商品開発を行える。さらに自社内にデザイン部門を擁し、デザインワークにおける意見交換などもタイムラグなくスムーズに行うことができる。現在は自社商品のみならず、小規模生産という強みを生かしたリキュールのOEM事業にも取り組んでいる。



9

⑨新商品の誕生に合わせて老川氏が商品コンセプトを決定。それに合わせてデザインワークが行われている。⑩「パッケージデザインを担当する同社取締役の林優花さんは「和花は和柄をイメージしつつお酒っぽくしなかった」とデザインの方向性を振り返る。



10

この事業を活用しました

コンサルファームに匹敵する対応を、無料にて何度でも！よろず支援拠点

経営改善、販売促進、商品開発等、広範な相談に無料に対応、単なる問題点の指摘や現状分析に終わらず、貴社の強みを見つけ、具体的な戦略を立て、成果に導きます。“中小零細企業を活性化することこそが岩手の活性化につながる”という理念に賛同して集まったメンバーが、チームで貴社の「稼ぐ力」を大きくします。どんなお悩みでもお気軽にご相談ください。

お問い合わせ よろず支援拠点 TEL:019-631-3826



販路開拓・拡大支援！スーパーマーケット・トレードショーへの出展支援

2月に幕張メッセで開催される、「第57回スーパーマーケット・トレードショー2023」への出展支援を今年度も予定しております。昨年度は33社出展し、本展示会出展を契機に多くの取引が成約となりました。全国の大手バイヤーが参加する本展示会を販路開拓・拡大にご活用ください。

お問い合わせ 地域産業担当 TEL:019-631-3823



「中小企業デジタル化支援ネットワーク推進事業」のご案内

岩手県では、令和4年度から、県内企業のデジタル化促進に向けて、行政、商工団体、支援機関、金融機関等の関係機関が連携し伴走支援を行う事業を開始しました。

当センターでは、専門のコーディネーターを新たに配置し、関連部門と情報共有を図りながら企業様からの相談に対応するほか、個別訪問による現地での支援や導入資金、人材育成など各種支援策とのマッチング等を継続的にサポートしていきます。



盛岡圏域での事業説明・相談会

■お問い合わせ 産学連携室 TEL:019-631-3825

「SEA」推奨安全教育セミナー」の開催について

半導体製造に係るクリーンルーム内の設備・機械のメンテナンス・保全人材の育成を目的とした安全教育セミナーを4月27日～28日に開催し、12名の方に参加いただきました。

参加者には、座学・実技の講習及びテストを経て、クリーンルーム内での作業に必要な修了証（一般社団法人日本半導体製造装置協会（SEA）認定）が交付されました。

今後も、半導体関連産業参入を目指す県内企業の人材育成及び取引拡大を支援して参ります。



■お問い合わせ

取引支援・産業集積担当 TEL:019-631-3822

「令和4年度いわて加速器関連産業研究会総会」の開催について

「いわて加速器関連産業研究会」の令和4年度総会、および「第1回ILC技術セミナー」を、6月1日に盛岡市・プラザおでにて開催しました。

当日は50人の出席があり、吉岡正和加速器コーディネーターによる基調講演や本県および秋田県の企業・団体の代表による講演が行われました。

「ILC技術セミナー」は、今後も8月、10月、12月、令和5年2月に開催を予定しています。研究会申し込みは無料です。

加速器（リニアコライダー）関連産業へ関心のある皆様のご参加をお待ちしております。



■お問い合わせ 産学連携室 TEL:019-631-3825

「下請かけこみ寺」のご案内

当センターに設置している「下請かけこみ寺」では、中小企業・個人事業主・フリーランスの皆さんが抱える取引上のトラブルに関する相談を受け付けております。

問題解決に向けて、企業間取引や下請代金法などに詳しい専門の相談員や弁護士がアドバイスをを行いますので、取引上のトラブルでお困り方は是非ご相談ください。相談に係る費用は無料です。

【相談事例】

- ・支払期日を過ぎても代金を支払ってくれない。
- ・お客さんからキャンセルされたので、不要となった部品を返品された。
- ・長年取引をしていた発注元から突然取引を停止された。

■相談用フリーダイヤル:0120-418-618

受付時間:平日9:00～12:00/13:00～17:00

(土日・祝日・年末年始を除く)

「いわてマルシェ2022」の開催について

5月26日から5日間、パルクアベニュー・カワトクにて、「いわてマルシェ2022」を開催しました。

4回目の開催となった今年度は、新規メーカー23社を含め、過去最多の県内59の事業者が自慢の逸品を出展しました。

会期中は県内えりすぐりのグルメや工芸品、アパレルなどの買い物を楽しむ客で賑わいました。



■お問い合わせ

地域産業担当 TEL:019-631-3823

「プロフェッショナル人材戦略拠点」のご案内

当センターでは、専門的な経験を有する人材とのマッチングを支援する「プロフェッショナル人材戦略拠点」事業を実施しております。当センターから一度に45の人材紹介会社に求人情報を提供できるので、より多くの求職者にアピールが可能で、何度面接しても、納得いく人材を決定するまで、経費は発生いたしません（決定した人材を採用する際には、費用が発生いたしますので、ご留意願います）。

また、人材を雇用するのではなく、一定期間、業務を委託できる「副業・兼業」人材も対応していますので、お気軽にお問い合わせください。

●正社員

- ・取締役・工場長
- ・PM,PL,管理者
- ・資格保有者(国)
- ・基幹システムのDX

●副業人材(コスト低減!)

- ・WEB,ECサイト,SNS支援
- ・ブランディング・マーケティング強化
- ・就業・給与規定作成

■お問い合わせ プロフェッショナル人材戦略拠点 TEL:019-631-3828

令和4年度いわて希望応援ファンド採択事業の決定について

当センターでは、2日間にわたる審査委員会での審査を踏まえ、このほど新商品開発や販路開拓等に取り組む22の事業者に、助成金の交付を決定しました。

今回の交付決定額は、合計で約34,000千円となりましたが、引き続き県内の中小企業者による新事業活動を支援して参ります。



金属製支柱の根元保護部材

きわガード®

- 特許登録：令和4年1月21日 特許第7012978号
- 商標名：きわガード 登録第6460876号
- 原材料・形状：コンクリートブロック 軽量・組み立て式、角型・丸型

令和3年度希望応援ファンドで支援した商品

■お問い合わせ

地域産業担当 TEL:019-631-3823

「工程カイゼン指導事業」のご案内

当センターでは、製造業における「生産の無駄の排除」（生産効率の改善）等を目的として、個別企業向けに、「工程カイゼン指導事業」を実施しております。

「トヨタ自動車東日本(株)OB」を指導者として、企業を訪問し、支援しております。また、生産設備が故障しないための「管理手法(株)(保全)」についても、併せて支援しております。

「カイゼン」活動に関心のある企業様は、お気軽にお問い合わせください。

●お申し込みの前に、以下、ご確認ください

- ・コンサルタントではありませんので無料です
- ・指導は「指示・提案」となりますので、実務は企業の担当者に担っていただきます
- ・事前に代表と面談の機会をいただいております

■お問い合わせ

産業人材育成担当 TEL:019-631-3824

設備貸与制度のご案内

制度の概要

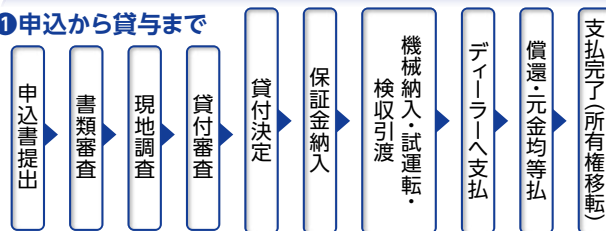
この「設備貸与制度」は、岩手県内の中小企業の皆様が必要とする機械、設備をセンターが購入し、長期・低利で貸与する公的制度です。

制度のしくみ



申込方法

①申込から貸与まで



②申込方法

ホームページから申込書をダウンロードし必要事項を記入のうえ、添付書類を添えて、センターに郵送もしくは、直接ご持参ください。

貸与の条件

対象企業	県内に事業所・工場を有する中小企業 (企業組合・協業組合含む)
貸付期間	3年～10年(導入設備耐用年数上限)
貸付限度額 (消費税含む)	100万円～1億円
対象設備	自社で使用する事業用の設備(建物を除く)

保証金	貸与額の10%(最終償還時に返済)
利息 (貸与損料)	年率1.10%～1.60%(固定金利) (お申込企業様の財務内容により決定)
連帯保証人	法人:代表者1人、個人事業者:不要 (経営者保証ガイドラインに準拠)

■お問い合わせ 総務金融部 金融支援室 TEL:019-631-3821

ILC current topics

普及啓発と理解増進に関する取組について

ILCの普及啓発とILCの学術的な意義や地域への波及効果等について、県民、国民の理解増進を図るため、関係団体等と連携して様々な活動を展開しています。

昨年度は海外の研究者等をターゲットとした、建設候補地周辺の様子を紹介する動画を作成しました。この動画はILCが実現した際に、海外の研究者等が仕事で岩手に住むことを想定し、建設候補地周辺での実際の暮らしをイメージすることができる内容となっています。

また、4月29日、30日には「ニコニコ超会議2022」が千葉県の幕張メッセで3年ぶりにリアルで開催され、岩手県がブースを出展しました。今年は「超岩手県2022～時空を超えて～」というテーマで、岩手県の3つの世界遺産と併せてILCのPRが行われ、超伝導加速空洞の実物の展示や岩手大学落語研究会によるILCを題材とした落語と漫才の公演、関係団体の協力によるILCグッズの販売等を通じて、多くの方にILCについて知ってもらう機会となりました。

この他にも、関係団体等と連携したSNSによる情報発信、ILCの学術的意義や最新動向をテーマとした講演会の開催、英語版広報誌「THE KITAKAMI TIMES」による海外の研究者に向けた候補地周辺の様子やILC実現に向けた地域の取組等の発信、ILC刊行物の発行及び配布等の活動を行っています。

昨年度作成した建設候補地紹介動画と英語版広報誌「THE KITAKAMI TIMES」の記事は、下記ホームページ等から見るができますので、是非ご覧ください。

(関連HP等)
建設候補地紹介動画
岩手県国際リニアコライダー推進協議会
YouTubeチャンネル
<https://youtu.be/mfrM-nyNYrc>

THE KITAKAMI TIMES
岩手県国際リニアコライダー推進協議会英語版HP
<https://www.iwate-ilc.jp/eng>

